

日本人アーティストが展覧会開催

冷たい金属の質感を活かしながら、柔和な曲線を表現する日本人メタル・アーティスト、小西純二氏の展覧会がシテイにある、RMITギャラリーで開催された。

展覧会は3月11日から13日までの三日間。会場には1996年から'98年までの小西氏の作品26点がされた。

小西氏は北海道江別市生まれ、職業訓練大学校で金属加工を学び、青森県で職業訓練学校の指導員を務めている。のち東京国立芸術大学で彫金加工を学んで、来豪したのは1990年。RMITで博士号を収めた。現在、同大学の講師を務めつつ、作品を制作している。

初日のオープニング・セレモニーではまず、RMIT教授のグラント・ハンナン氏が小西氏の略歴に触れた後、この展覧会の主催者である、ロビン・ウィリアム同大学教授が「純二はあらゆる面でパイオニアだ。最初の日本人オナーズ学生であり、マスターであり、ドクターである。東洋の有機的な



▲日本人アーティスト
小西純二氏

曲線と西洋技術と理論を融合させたユニークな作品だけでなく、人間としても、彼は素晴らしい先生であり、友人であり、クラフトマンである。また、あらゆる面で彼は日豪の橋渡しをする、大使としての役割を演じている。」と述べた。

小西氏は「初期のスタイルである、金属レリーフから脱皮して、違う世界を開拓しなければならないというのが渡豪の一つの目的だった。それが果せた今の目標は金属造形としてもっとデザイン

要素の強いもの、工芸デザインや造形デザインの分野に発展させていきたい。」とこれからの抱負を述べた。

小西氏の作品はシドニーのクイーンヴィクトリアビルディング内のギャラリー、クオードピリアムで常展されている。



▲展覧会出展作品
キャンドルスタンド

サザンクロス新聞

メルボルン日系新聞、オーストラリア 1999、4